

SOMETHING OF PAINTING

Part3

MAT Exhibition vol.7

前期 設楽知昭
2019年1月22日(火)―
2月16日(土)

後期 秋吉風人
2019年2月19日(火)―
3月16日(土)

11:00-19:00
(入場は閉館30分前まで)

休館日 日曜・月曜・祝日

入場 無料

絵画の 何か Part 3

Tomooki Shitara

Futo Akiyoshi

港まちポットラックビルでは、これまで2015年、2017年と2回に渡り「絵画の何か」と題した展覧会／トークシリーズを開催し、この地域を中心に大きな反響を得てきました。愛知はこれまで数多くの優れた画家を生み出してきた地域であり、多くの来場者とともに「絵画の何か」について考える有効な機会でしたが、「絵画の何か」についての明確な「何か」が答えとして見出されるわけではなく、この「問5」はこれからもなお続きます。継続的なシリーズの展開として、「絵画の何かPart3」を開催します。そもそも絵画とは、画面のなかで世界を成立させながらも、社会との接点や、ものごとを多角的に捉える視点など、外部との繋がりを模索してきた表現だとも言えるでしょう。本シリーズ企画者である佐藤克久は、この地域で制作活動を続けるアーティストの1人として、現在の絵画における「危機感」やその「広がり」についてを問題意識として提示してきました。今回はこの地域をベースや関わりとしながら画家としてまた教育者として、それぞれの活動を展開してきた2名の画家にそれらの問題意識を投げかけ、引き続きこれからの絵画への可能性を探ります。本展では会期を前期後期に分け、それぞれ個展形式で作品を展示します。また会期中には、トークなどのイベントを開催し、本展シリーズを読み解き、絵画を思考する場をひらきます。

設楽知昭
秋吉風人

企画 佐藤克久
Minatomachi Art Table, Nagoya
[MAT, Nagoya]
主催 港まちづくり協議会
協力 不忍画廊
Standing Pine
TARO NASU

MAT.
Nagoya

港まちポットラックビル
Minatomachi POTLUCK BUILDING

港まちづくり協議会
JOINT COMMITTEE OF PORT TOWN

秋吉風人の作品を鑑賞するためのキーワード

今回の展覧会を鑑賞するために、秋吉風人さんにインタビューを行いました。

今回の作品について

《room》

大学院の1年生の頃(2002年)からスタートしたシリーズです。白いキャンバスに何を描こうかと何もないスタジオで1ヶ月ほど考えていた時に、まずはこの空間を描いてみようと考えました。例えば、赤や青などの色にはそれぞれのイメージがあるので、光によって画面が変化し、現象に近い色として金色を選びました。当時、描き方の方法や金色の色合いの調整に約半年ほど試行錯誤しました。特定の場所ではなく、架空の空間を描いています。今回の出展作品は、2012年にベルリンのスタジオで制作して、NYで発表した10点組の作品で日本では未発表です。今後も描いていく予定のシリーズのひとつです。

《naked relations》

2013年からスタートしたシリーズです。「透けている絵って描けるかな?」というアイデアが発端となり、アクリル板に透明度の高い油絵の具を使って描いています。このシリーズは4層で構成されていて、1層ごとに描く範囲外にマスキングテープを貼り、表面が滑るので筆ではなく、ゴムベラで絵の具をのせる方法をとっています。色の重なりによってコントロールせずに色が作られ、層ごとにコンポジション(構図)とともに影響関係が生まれます。また、絵の具が乾くまでに3ヶ月程かかるので、完成するまでおよそ1年くらい時間を要しています。斜めに立てかける展示方法は、壁と作品の間に隙間を作ることで光が透過し、反射する効果を狙っています。タイトルは、ユーモアを込めて「裸の関係」としています。

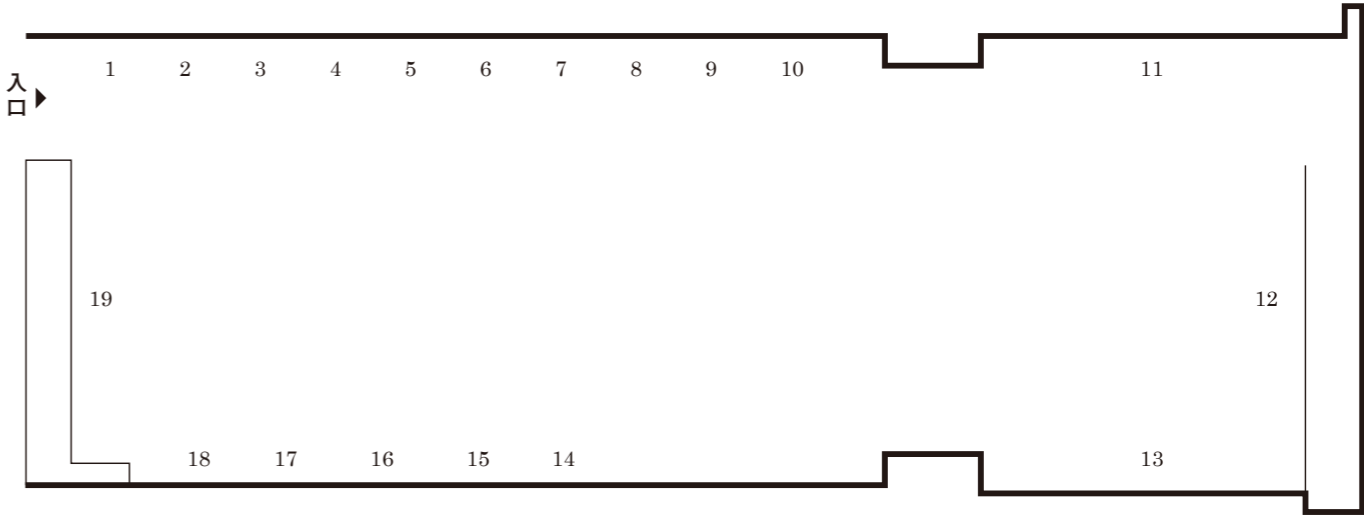
《We meet only to part》

昨年からスタートしたシリーズです。日本語タイトルは「逢うは別れ」。さまざまな技法を用いて1枚の絵を描き、半分に切り分け、同じように切り分けた他の作品と組み合わせることで1枚の絵として完成させます。タイトルにある《1. 17 / 4. 17》は、制作した順に2017年No.1/2017年No.4の組み合わせであることを表しています。組み合わせたタイミングで作品が完成するため、今後まだ組み合わせっていない右側、左側の片割れの絵がこれから描く絵とパートナーになることも想定して制作を続けています。右と左で絵を組み合わせた時に、自分で描いた絵であるのに、初めて見る絵に変わり、想定を超える面白さがあります。無限にできる組み合わせの中から、分割する前の絵よりも1枚の絵として、良いものになっているかどうかを意識して選択しています。

—— 3シリーズとも、手法や表現が異なりますが、共通していることはありますか？

それぞれのシリーズでは、コンセプトやルールをまず設定し、手法や描き方を変えて制作していますが、共通して大事にしていることは、コンセプトだけに依存せず、かつ作品の強度があり視覚的にも面白さや美しさがあるか、どちらも譲りたくないと思っています。コンセプトと視覚的な表現で必然性が生まれた作品がシリーズとして展開し、今後も続けて制作をしていく作品になると思います。

また「絵」を描いているというよりも「アート」としてユーモアのある作品を作っているかどうかという意識で制作をしています。これまで使い続けていて興味のある素材が油絵具なんです。油絵具は、使い方が難しくいまだにコントロールできていないので、「絵画」のルールに捉われず、これからも追求していきたいと思います。



後期 秋吉風人

2019年2月19日(火) —
3月16日(土)

作品リスト List of Works

1-10 《Room》
2012 | oil on canvas | 370mm×450mm [10点組]

11 《1.17 / 4.17》
2018 | oil on canvas | 520mm×700mm
from the series We meet only to part

12 《6.17 / 7.17》
2018 | oil on canvas | 520mm×700mm
from the series We meet only to part

13 《17.17 / 20.17》
2018 | oil on canvas | 520mm×700mm
from the series We meet only to part

14 《naked relations》
2016 | oil on acrylic board | 550mm×420mm

15 《naked relations》
2016 | oil on acrylic board | 550mm×420mm

16 《naked relations》
2016 | oil on acrylic board | 550mm×420mm

17 《naked relations》
2016 | oil on acrylic board | 550mm×420mm

18 《naked relations》
2016 | oil on acrylic board | 550mm×420mm

19 《naked relations》
2016 | oil on acrylic board | 550mm×420mm